

## 課題の概要

- 地域再生人材養成ユニット名 「『世界俯瞰の匠』育成プログラム」
- 総括責任者名 「学長 結城 章夫」
- 提案機関名 「国立大学法人 山形大学」

### 地域の現状と地域再生に向けた取組状況

山形県米沢地域は、パソコン等の情報家電製品と電子部品分野で国内最大級のものづくり拠点となっている。しかし、海外との競争が激しさを増すなか、下請け型産業構造であるため、付加価値率が全国を大きく下回っている。これまでは、比較的価格の高い国内向け需要の伸びに支えられてきたが、国内市場が頭打ち傾向にあり、このままでは低付加価値化の進行による「ものづくりの崩壊」が懸念される。

このため、山形大学では、地域産業の高付加価値化を実現する技術と経営のマネジメント人材を育成する MOT 専攻の設置、産学官連携による人材育成や地域技術戦略の検討を進めている。

### 地域再生人材創出構想

グローバルマーケティングから品質管理、リスクマネジメントまで総合的に世界市場を俯瞰できる人材の育成を目指して、地域中小企業のための「世界戦略MOT」教育プログラムを実施する。これにより、情報家電分野のものづくりを支える地方圏の中小企業が、自らが主体的にグローバル戦略を展開できるようにすることで、地域産業の高付加価値化を図る。

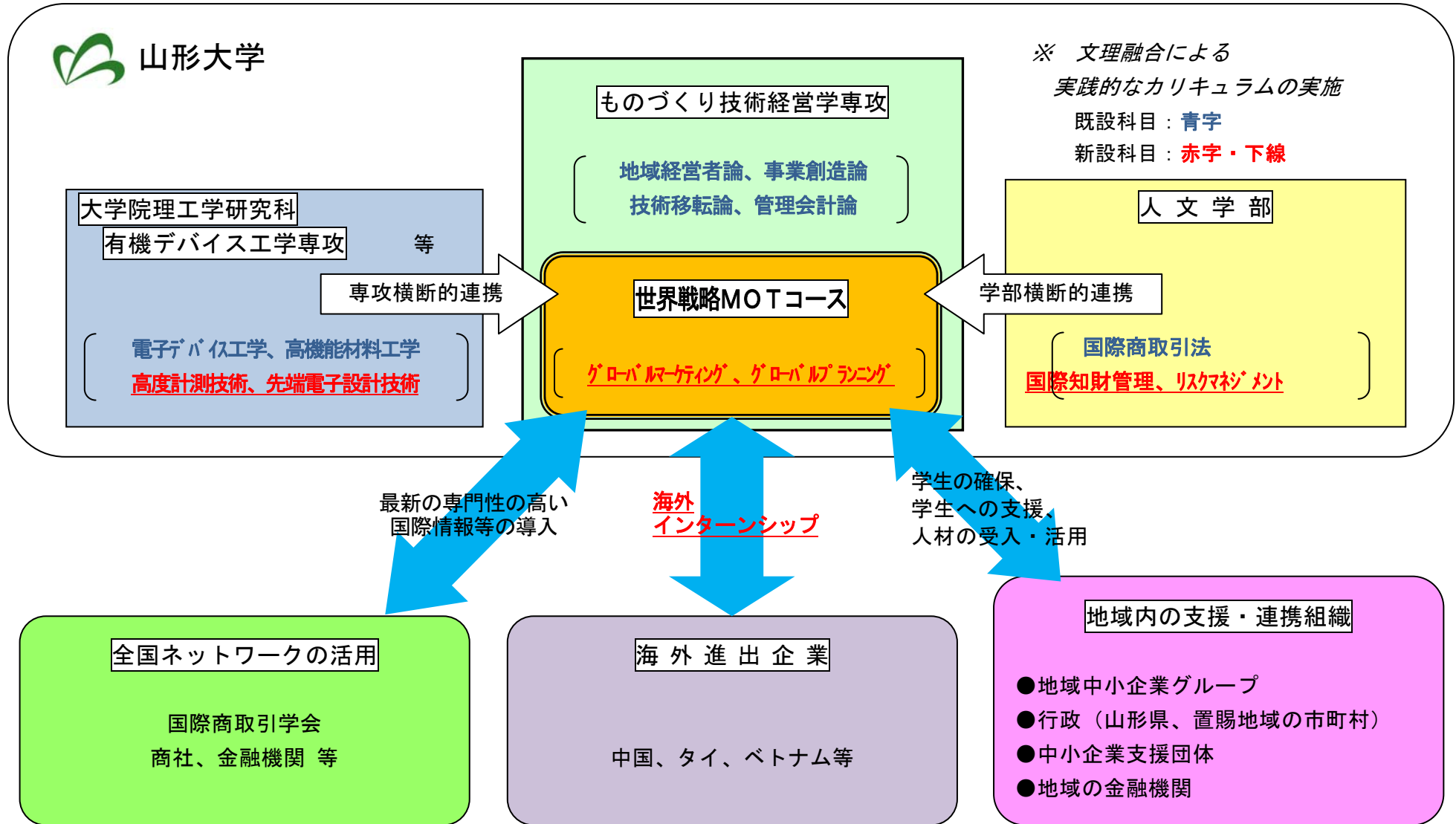
カリキュラムは実践的なものを中心に、海外進出企業と連携した海外インターンシップを組み合わせ、①バリューチェーン全体の分析、経営マインド育成、②グローバル戦略プランニングのための知識、的確な情報収集のためのスキルの習得、③競争優位を実現するための技術開発力及び商品開発力の習得ができるようにする。人材育成の到達レベルは、実務のなかで海外展開の中心となって戦略構築と事業遂行が行える能力の獲得を目標とする。

開設する修士課程のコースの入学定員は6名とし、事業開始3年目（平成22年度末）修士修了者6名、事業開始5年目修了者18名（うち米沢地域6名程度）を予定している。

### 自治体との連携・地域再生の観点

山形県では、平成18年に「やまがた総合発展計画置賜地域グランドデザイン」を策定し、下請け型からの脱却と地域自らが経営戦略を決定し事業展開していく自立した地域産業への展開を掲げている。山形県と山形大学は、全国に先駆けた人事交流や、山形大学の研究シーズを活かして産業コンプレックスの形成を目指す有機エレクトロニクスバレー構想の推進など、広く連携を図ってきた。こうした自治体と大学との連携の実績を活かし、世界的視野で市場を俯瞰し、高い技術力を背景とした高付加価値型事業展開を担う地域企業人の育成に取り組むことで、地域産業の付加価値増大を促進していくこととした。

# 課題の実施体制 (「世界俯瞰の匠」育成プログラム)



## 課題の実施内容 (「世界俯瞰の匠」育成プログラム)

### ◆育成する人材の目標

グローバルマーケティングから品質管理、リスクマネジメントまでを総合的に「世界市場を俯瞰できる技術人材」の養成

●ものづくり技術力を基盤に、世界市場を俯瞰した高付加価値型事業の展開  
⇒人口減少に伴う国内市場の縮小、激化するグローバル競争への対応

地域再生

### ◎想定される対象者

エレクトロニクス分野等の中小企業の従事者、金融機関、産業支援団体や行政の担当者 など

### ●世界俯瞰の匠 養成ステップと教育リソース (地域中小企業のための世界戦略コース)

STEP 1 バリューチェーン全体の分析力養成、経営マインドの醸成

STEP 2 グローバル戦略構築上の知識、的確な情報収集スキルの習得

STEP 3 海外との競争優位を確保する開発力、大学のシーズを活用した高度技術力

世界市場を俯瞰できる技術人材

山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻  
★実践的技術経営カリキュラム

国際商取引学会・商社ネットワーク  
★全国的な国際商取引の知見

山形大学人文学部  
★国際知財・契約・管理カリキュラム

海外進出企業ネットワーク  
★海外インターンシップの実施

山形大学大学院理工学研究科有機デバイス工学専攻等  
★豊富な先端的研究シーズ

### ■コースの特徴

- 海外インターンシップの実施による課題解決力と実行力の養成
- 学会や商社とのネットワークによる最新の専門知識の導入

- 地域の産業界との密接な関係を基盤としたプログラム
- 文理融合による実践的なカリキュラム
- 高付加価値の創出に向けた先端技術教育

## ミッションステートメント

- 地域再生人材養成ユニット名 「『世界俯瞰の匠』育成プログラム」
- 総括責任者名 「学長 結城 章夫」
- 提案機関名 「国立大学法人 山形大学 」

### (1) 地域再生人材創出構想の概要

情報家電分野のものづくりを支える地方圏の中小企業が、戦略的に自らが主体的にグローバルに事業展開することにより、地域産業の高付加価値化の実現を図る。

このため、地域中小企業のための「世界戦略MOT」教育プログラムを実施し、地域に集積するエレクトロニクス企業や支援機関職員を対象に、総合的に世界市場を俯瞰できる人材の育成を目指す。カリキュラムは実践的なものを中心とし、受講者が修了後に実際にグローバル展開のプランニングができるようにする。

### (2) 3年目における具体的な目標

本プログラムでは、平成20年度中における「カリキュラム開発（シラバス・ティーチングノート等）」「実習設備の整備」等を経て、平成21年4月から新コースを開設する。開設する修士課程のコースは、入学定員を6名としている。

このことから事業開始3年目（平成22年度末）修士修了者6名、事業開始5年目修士修了者18名を地域内に中核的な担い手として輩出することを予定している。

特に、再生計画の対象地域である米沢地域からの入学者また修了生の同地域への定着のための具体的な手法について、大学・山形県・米沢市・地域民間企業等関係者間で密接に連携していく。

### (3) 実施期間終了後の取組

本採択期間終了後も、本採択事業を通じて蓄積された人材育成ノウハウ・地域や各種団体・企業等とのネットワーク等を最大限有効に活用し、引き続き人材の育成を行っていく。基本的には、本学大学院として設置していることから授業料等受益者負担によりつつ持続的な事業継続を図っていく。

### (4) 期待される波及効果

パーソナルコンピュータや情報家電等の情報通信機械器具製造業の国内最大規模の集積地域である米沢地域は、一方で全国的に付加価値率の低い地域でもある。厳しくなる国際競争の中で、「国内のものづくりの崩壊」が懸念されている。

世界的視野で高い技術力を背景とした高付加価値型事業展開を担う地域企業人の育成を図ることで、ものづくり技術力を活かした地域産業の付加価値の増大が期待される。